

# 《《新型コロナウイルス感染症に対する当院の対応について》》

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当院では以下の取り組みを行っております。

- ◆ 1階エントランスホールで来院される方に非接触型体温計での体温測定、マスク着用、手指消毒の励行を実施しております
- ◆ 外来待合では、30分に1回換気を行い、座席の間隔を広くし、ひと席空けてお座りいただいております
- ◆ 電話診療を希望された方に、電話診療で処方箋の発行を行っております
- ◆ 入院されている患者様へのご面会は、原則禁止とさせていただきます
- ◆ 当院職員は、毎日出勤前、終業後に検温を実施して健康観察を強化しております

当院は、新型コロナウイルス感染症の検査ができる病院ではございません。感染を疑う方は「あきた帰国者接触者コールセンター」へ連絡いただきます（018-866-7050）

- 疑いが強い方⇒帰国者接触者外来（当院は対象外）へ案内されます。
- 疑いが少ない方⇒発熱、風邪症状がある方は、一般外来で診察を行います。

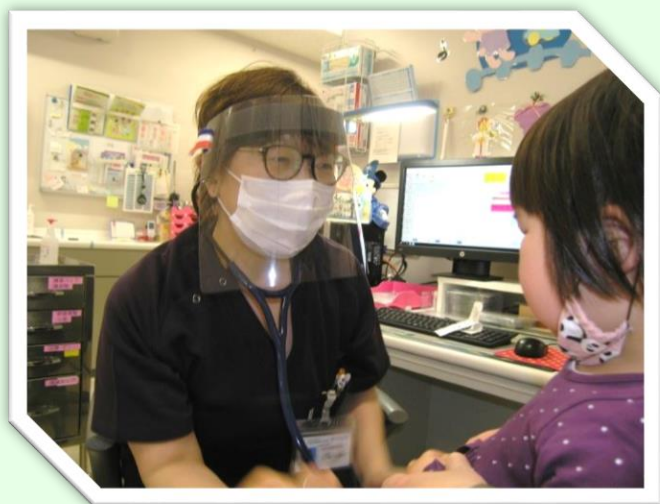
**当院では、一般外来を勧められた方は専用診察室で診察をします。**

- ・ 受診の際には、**事前にお電話にて連絡**をお願いいたします。
- ・ 電話で問診を取らせていただきます。
- ・ 受診時間の調整をしますので、受診時間に合わせて来院していただけます。
- ・ 病院に到着したら、自家用車で待機し、電話で「感染症担当をお願いします」とご連絡ください。専用診察室にご案内します。
- ・ マスクをお持ちでない場合は、受診の連絡の際にお伝えください。

**当院では、慢性疾患で通院している方、職員を感染リスクから守るために、時間、空間、動線を区別しています。**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、サージカルマスクやゴーグル、フェイスシールド等の个人防护具の需要が高まり、厚生労働省は例外的取扱いとして再使用するなどの効率的使用を発表しました。特に新型コロナウイルスは、咳やくしゃみなどのしぶき（飛沫）によって、眼、鼻、口などの粘膜から侵入し、体内

で増殖するため、当院では、感染症を多く取り扱う小児科や耳鼻科で、フェイスシールドを着用して診察しています。このフェイスシールドは、臨床検査技師が作成しました。材料は、100円ショップ等で揃え1個あたりの材料費は100円程度です。使用した医師にも好評です。



また袖なしエプロンは、オムツ交換やリネン交換、清掃など数多くの場面で使用する个人防护具です。供給停止に備え、看護部では、ごみ袋を活用したエプロン作成の講習会も開催しました。作成も容易で現在使用しているエプロンと大差なく使用できます。

来るべき時に備えて、工夫しながら頑張っています。



独立行政法人 地域医療機能推進機構 秋田病院 地域医療連携室

〒016-0851 秋田県能代市緑町 5-22

TEL : 0185-52-3271 (代表) FAX : 0185-54-7892 (代表)

地域医療機能推進機構（JCHO）秋田病院

# 地域医療連携室だより

2020年度 第1号 4月



## 病院長あいさつ

JCHO 秋田病院 院長 おおつか ひろのり 大塚 博徳



2020年4月より院長に就任しました大塚博徳です。医療の世界では5事業(救急医療、災害医療、へき地医療の支援、周産期医療、小児医療)、5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)が注目され、評価される傾向にありましたが、超高齢社会になっている近年の日本においては、地域医療のニーズは多様化しています。能代山本地域は全国でも少子高齢化と人口減少が著しい地域であることは、皆様がよくご存じのことだと思います。

私は、地元能代市の出身であり、当院に整形外科部長として平成10年10月に就任し、20年以上当地域の医療に携わってきました。

整形外科医として、人工関節手術や脊椎手術など多くの手術を行い、痛みや苦痛を取り除くことで、患者さんの生活の向上を目標にやってきました。その中で感じたことは、当地域には、高齢のため手術や投薬では治せなかったり、食べることが困難で施設入所ができない患者さんが多く存在すること、そしてその家族の困惑の実情、また、老人の一人暮らしや老々介護の多さも実感してきました。

当院は、病院、附属介護老人保健施設、健康管理センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、能代市本庁地域包括支援センターを有しているのが大きな特徴です。疾病予防・早期発見、治療、施設での介護、在宅での介護や支援・相談という事が一施設で一貫してできる病院であり、まさに我が国が目指す地域包括ケアシステムを地域において実践できる病院です。当地域の医療介護に対するニーズは、長期的には時代と共に、短期的には季節やあるいは気候によっても変化します。地域住民、行政、関係機関からの要望窓口を広げ、その要望に可能な限り答えていきたいと思っています。

地域医療構想、医師の働き方改革真っただ中での就任であり、両課題は同時に解決していくものだと考えています。本課題は医療現場である医療機関主導で考えていくことが大切であり、それが何よりも地域住民の理解が得られやすい結論に至ると思っており、積極的に取り組んでいきます。当院の職員には全員に、医療職人として夢や目標をもって仕事をする職員になれるように指導していきます。

その職員が働きにくい、笑顔になれない職場では、患者さんや介護が必要な人たちを笑顔にすることはできないと思っています。

そういう考えから、まずは職員がやりがいをもって働くことができ、若い職員からベテランまで、この地域の医療・介護に対して積極的に参加していける職場づくりが必要だと考え、今年度の病院目標の一番目として「職員一人ひとりが笑顔で働くことのできる職場づくりの実施」を掲げました。

地域住民の要望にこたえ、愛される病院づくりに精いっぱい努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

## 新任のごあいさつ



JCHO 秋田病院の看護部長を拝命しました、安田でございます。3年間、福島県にある JCHO 二本松病院へ広域異動し、地域の違いや組織の違いなどを学んで、このたび自身が育った地元に戻って参りました。

これからの JCHO 秋田病院は大塚新院長と共に、病院一丸となって、地域の皆様のために尽力していく所存でございます。浅学非才の身ではございますが、病院内の職員が地域の皆様のお力になり、地域貢献できるような力を合わせて、「笑顔と思いやりが集う病院」でありたいと願っております。

患者様・利用者様を尊重し、個別性のある看護・介護の提供に励んでいきたいと思っております。心のこもった看護や介護ができるように、職員個々のスキルアップを図りながら、学べる、そして生き生きと働ける職場環境を目指してまいります。

地域の皆様おひとりおひとりの人生を大切に、寄り添いながら、職員一人一人が頑張っていける職場にしたいと思っております。

今後とも、JCHO 秋田病院は地域のために頑張ってまいります。笑顔で頑張る JCHO 秋田病院の職員を温かく見守ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

(看護部長 やすだ 安田 じゅんこ 純子)

皆様はじめまして。4月から JCHO 秋田病院の整形外科に赴任しました對馬誉大と申します。よろしくお願いいたします。僭越ながら簡単に自己紹介をさせていただきます。弘前市出身で弘前大学を卒業し、本州最北端の総合病院であるむつ総合病院、弘前大学、青森県立中央病院、大阪大学、富山県の高岡整志会病院と様々な関連施設で研修を行って参りました。

秋田県に住むのは初めてですが、私は小学生から大学生までバスケットをやっており、毎年のように「能代カップ」を見に来ておりました。今年能代カップが中止になったのは残念ですが、「バスケットのまち、能代!!」の市民の皆様の健康生活のために役に立てるよう、全力を尽くして参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



(整形外科 つしま 對馬 たかひろ 誉大)



菖蒲の花ことば : 「信頼」「優しさ」「情熱」

## 職員ペンリレー紹介



### 3年間の仙台での転勤生活を終え

4月より秋田病院へ帰ってまいりました工藤と申します。

JCHO 仙台病院は、20の診療科と5つのセンターを有する、病床数428床（一般病床418）の総合病院で特に腎移植に関しては県内を問わず県外の患者さんに対しても先進的医療を提供しています。

仙台病院では、心電図や呼吸器検査など生理検査を担当していましたが秋田病院に帰って来てからは生化学検査に新人としております。

昨年、首の手術で患者さんとして入院して思った事は病院に来ると誰しも検査を受けるという事、特に結果が出るまでは不安です。

これからは、少しでも不安を取り除き安心して検査を受けて頂く事や一つ一つの検査が患者さんにとって大切な検査です。まだまだ伸び代があると信じて検査手技のスキルアップを目指していきたいと思えます。

（臨床検査技師長 くどう まさひで 工藤 正英）



## 認定看護師からのお知らせ ー第4回ー

### 認定看護師の活動

がん性疼痛看護認定看護師 のろた あらた 野呂田 新

当院では、5分野6名の認定看護師が各分野で活動しています。今回は、がん性疼痛看護認定看護師の活動についてご紹介いたします。

がんの痛みを抱える方の苦痛を緩和するために、痛みの治療（鎮痛剤の使い方や副作用対策など）や、それに伴う不安などの相談・アドバイスを行い、患者さんやご家族が安心して普段通りの生活を過ごすことができるよう、支援しています。

患者さんやご家族の支援には、多職種による協働が非常に重要となります。当院では、2018年4月に緩和ケアチームを発足いたしました。チームは薬剤師、理学・作業療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、がん分野の認定看護師で構成されており、認定看護師として、チームのコーディネーター役も担っています。緩和ケアチームは、毎月2回のカンファレンスを設け、情報を共有しながら、「がん患者さんとそのご家族が持つ、あらゆる苦痛の緩和を図り、その人らしい生活ができること」を目指し、取り組んでいます。

がんによる痛みや療養に関する不安、相談などございましたら、地域連携室までお気軽にお声がけください。

